

# アクティベータ・メンソッド

Vol.2



保井 志之DC



## 機械論と生命論

射作用を利用し  
た有機的検査技  
法ができる

アクティベータ・メンソッド  
(以下AM)の下肢長検査法  
は、AMの治療指針である「い  
つ、どこを矯正し、いつ矯正  
しないか」を決定する神経関  
節機能障害分析の根幹となり  
ます。この神経生理学的な反



保井 志之DC

この有機論的分析法の価値  
を理解して頂くために知って  
頂きたい世界観があります。  
世界は基本的に「機械論的世  
界観」と「生命論的(有機論的)  
世界観」に大局的に分類する

ことができます。カイロプラ  
クティックの歴史的潮流も  
「機械論的カイロ」と「生命  
論的カイロ」に分類され、機  
械論の特徴は、安定的で予測  
可能、線形思考、平衡系、閉  
鎖系の思考が優先されます。  
一方、生命論の特徴は、動的  
で予測不可能、非線形思考、  
非平衡系、開放系の思考が優  
先です。

カイロの分析法においても  
「機械論」と「生命論」に分

けてみることができ、どちら  
も大切な分析法ではありません  
が、臨床の現場では、どちら  
か一方が優先される傾向があ  
ります。X-rayや皮膚表面  
温度計での測定、並びに触診  
によってサブラクセーション  
を分析する手法は機械論的分  
析法に分類されます。また、  
AMなどの下肢長検査法やA  
Kなどの筋抵抗検査法など、  
生体の神経生理学的反射を介

して生体を分析する手法は生  
命論的分析法に分類されま  
す。

カイロの歴史を振り返る  
と、1930〜1940年代  
にかけて、その潮流が大きく  
分かれているようです。科学  
的な医療として認知されやす  
いのは機械論なのですが、生  
命論(有機論)は非科学的だ  
と揶揄されながらも世界中の  
臨床現場で広く活用されてい  
ます。

AMの下肢長検査法も生命  
論(有機論)の一つで、その  
発祥の起源をたどると、DN  
FTの創始者のヴァン・ラン  
プトDCとメーベル・ディア  
フィールドDCが開発した下  
肢長分析法、さらには大腿骨  
の内転筋結節を指標とするト  
ラスコット・システムの発明  
者であるローン・トラスコッ  
トDCの分析法にも影響を受  
けています。(次号に続く)